

スピーキングとライティングの違い

英語のコミュニケーションというものをとらえた場合、メッセージの発信は、「日常会話」「スピーチやプレゼンテーション」「ライティング」の3つに分類されます。会話では、メッセージがわからなければ話者を中断させて質問ができますが、スピーチ・プレゼンではわからなくても最後まで聞かなければならず、ライティングも然りです。しかし、会話やスピーチ・プレゼンの発話は一過性 (fleeting) の音声情報であるのに対して、書く前後に頭の中で思考・論理展開の試行錯誤を繰り返したりしながら生み出すライティングは、何度も読み直して理解することができます。そこで、英語のスピーキングとライティングのメッセージでは次の違いが起こってきます。

〈スピーキング〉

1. 1回聞いてわかるように、リスナーのレベルに応じて、普段使わないような聞きなれない文語的な表現や堅い言葉をあまり使わない。一般的な語 (general words) を用いて誰でもわかるように配慮する傾向にある。
2. 一過性の音声情報なので、意図的に繰り返す (redundancy) ことによってメッセージを伝えようとする。
3. 強勢や抑揚やチャンキング (意味のまとまり部分を一息で言う) を用いて、音声情報を明確で説得力のあるものに

〈ライティング〉

1. 読み返したり、辞書を引いたり、視覚情報であるので、含蓄やインパクトのある格調高い文語的な表現や堅い言葉を用いることができる。
2. 質問のできない一方通行のライティングでは、意味の限定された specific words を多く用いる。
3. 強勢や抑揚やジェスチャーなどのノンバーバルファクターで説得力やインパクトを出すことができないために、インパクトや含蓄のある語・表現 (ハイレベルな specific words であることが多い)

しようとする。文法語法的精度よりデリバリーやアイコンタクトなどノンバーバルファクターが重要となる。

4. 対話は準備なしで起こり (naturally occurring)、また発話の途中でも質問がしやすいので、意味の多い基本語の使用、説明の不足、論理の矛盾、あいまいさに対する許容度がライティングやプレゼンよりかなり高い。

を用いる傾向がある。

4. 質問をはさむことができないので、論理の展開を明快にし、誤解を招くような文法・構文ミスは避けなければならない。文法・語法の精度が要求される。
5. 読み返すことができる分、繰り返し (redundancy) を避け、読者が読むのにかかる時間を短縮できるように無駄のない英語でメッセージを伝える必要がある。

さらに英語の検定試験の場合は、スピーキングのテストは概して短いのでそれほど掘り下げなくてもよいのに対して、ライティングは概して理由を3つ述べて掘り下げるような分析力・哲学力が必要となってきます。

このようにスピーキングとライティングはかなり違いがあるように見えますが、社会問題の討論やビジネスのプレゼンや学会発表のようなフォーマルなスピーキングの場合は、英語のスピーキングとライティングの差がなくなっていくます。つまり、録音に耐えられるぐらいいきれいな written English を話すのが理想なので、日常会話のようなノリで「話すように書く」のではなく、「書くように話す」を目指す必要があります。

そもそも英語の“write”とは、英英辞典 (Oxford) では次のようにあります。

- ① **to produce something in written form so that people can read, perform or use it, etc.** (何かを文章の形で生み出し、人が読んだり実行したり使ったりできるようにすること)
- ② **to put information, a message of good wishes, etc. in a letter and send it to somebody** (情報やあいさつなどを手紙にして、人に送ること)

つまり「読んでわかる文字情報を、手紙、本、記事などの形で生み出し、作品を作る」ということです。そして、記事、エッセイ (a short piece of writing on a particular subject)、論文 (an academic article about a particular subject) に共通していることは、ある「特定のテーマ」について書くことです。

また、① **technical writing** ② **journalistic writing** ③ **fiction writing** という3つの分類の見地から見ると、①はビジネスのメール、レポート、企画書、法律関係、特許、契約書、学校での作文やペーパー、学会論文などに用いられるライティング、②は『タイム』や『エコノミスト』など英字誌に見られるライティング、③は小説やドラマを作るときに行われるライティングです。

①のテクニカルライティングというのは、いわゆる**3C** (**clear**「明確である」、**correct**「正確である」、**concise**「簡潔である」) を特徴とするもので、できるだけわかりやすく、しかも引き締まった英語で書きます。それに対して、②のジャーナリズムのライティングは、レトリックを用いたりしてインパクトを出したり、注意を引くためにカラフルなメタファーやイディオム、句動詞 (例外を除く) を用いますが、メッセージはクリアかつ正確で言い回しも簡潔という要素もあるため①と重なっているところもあるので、奥の深いものです。それに対して③のフィクション・ライティングは、3Cとは関係がなく、クリエイティブで想像力を働かせながら読ませるといって、まさに芸術作品になります。

英語のライティング力を構成するものとは!?

本章では、英語のライティング力を最も効果的にUPするために、英文ライティングのスキルを構成するものについて述べ、日本人の英文ライティングの問題点の分析に基づいて、それらをどうやって克服し、いかに効率よく英語のライティング力を伸ばすことができるかについて、その最短距離アプローチについて解説していきたいと思います。まず、英語のライティング力は大きく分けて次の4つの能力から成り立っています。

英語のライティング力とは!?

1. 英語描写能力

これは「事物描写力」と「状況描写力」に分かれ、前者は物の外観、仕組み、利点、用途などを説明したり、映画、本、人物などについてどんなものであるかを説明する能力です。後者は、ビジネスレポートや論文であれば、数値的に状況を分析して、経緯や成長率・ポテンシャルなどを的確に描写したり、国際関係や人間関係などでは、たいていは複雑な状況を描写する能力です。これは次の「意見・感想表現能力」と異なり、**客観的に事実を描写する力が求められます。**

このスキルに関しては、欧米の方が日本人より勝っています。というのも欧米では、子どものときからの国語教育で「尊敬する人物、最も影響を受けた先生 (歴史上の人物)、忘れられない経験、最も行きたい国、望ましい友人 (上司) 像、住みたい家の特徴、ホームタウンの長所と短所」などのトピックに関して、長めの課題作文を書く練習をしたりして鍛えているからです。日本では、このような練習をすることがあまりないために欧米で作られた英語の検定試験を受けるときに苦労する人が多いわけです。

しかし、英語描写能力は、英語の資格検定試験で高得点を取るのに重要な能力で、実際、TOEIC SW の写真描写問題やビジネスレター問題、

IELTS のグラフ描写問題、工業英検のマニュアル・仕様書英訳問題などの他、英検や TOEFL iBT や国連英検特 A などのエッセイライティング問題での社会状況描写の際に重要なスキルです。この能力はこれから述べる他のスキルよりも、最も英語力自体が必要となるものです。

2. 英語の意見・感想表現能力

何らかのトピックについて意見や感想を述べる場合、英語圏の文化では概して「～は…である」といった「判断」だけを述べるのではなく、その理由、証明を論理的に述べるようになっていきます。つまり、事物であれビジネスや国内外の情勢についてであれ、evidence（データ、証拠）に基づいて分析や予測をしたり、意思決定や問題解決策を文章で述べる能力が必要となります。さらに上級レベルになってくると、英語のレトリックを用いて説得力のある論理展開をすることが求められます。

これは高度な英語の検定試験の「核」となっているもので、英検1級や TOEFL iBT、IELTS、国連英検 A 級・特 A などのライティング試験でテストされる、ロジカル（クリティカル）シンキングを文章を通して表すものです。この能力は英語表現力よりも論理的な分析能力（critical thinking ability）の方が重要で、この logical argument はたいていの日本人が苦手とするものですが、効果的英語学習法とシステムティックトレーニングによって、国際社会で通用する「論理的意見陳述能力」を身につける必要があります。

3. 英文サマリー引き締め能力

情報化社会で、膨大な情報を処理するに当たり、英文サマリーやアブストラクトを作る能力は極めて重要です。ビジネスの企画書であれ、学会論文であれ、ジャーナリズムであれ、最初に全体の短いサマリーをつけることが求められます。読者がこの短いサマリーを読んで興味がわかれば、さらに全体の内容を読み進めるというのが慣例です。実際、TOEFL

iBT、工業英検、TEAP や多くの大学入試英語問題で重要視されている能力で、無駄のない（pithy）英語で英文サマリーを作るスキルは、英語力とサマリー力の両方の力が必要となります。

4. 英語ストーリー制作能力

これは英語で物語やドラマの脚本やダイアログを作ったり、IELTS のような検定試験で、経験のない事柄についての質問に対して、何らかの英語のストーリーを述べる力です。一般人にはあまり重要でないように思えますが、ある程度脚色すると面白くて説得力のある話をするので、作家でなければ必要がないというのではなく、このスキルがあるのに越したことはありません。

これらが英語ライティングの4本柱で、一般的には特に重要なのは、「英語描写能力」「英語の意見・感想表現能力」「英文サマリー引き締め能力」の3つです。本書では、これら3つのスキルをUPするためのテクニックを述べ、そのトレーニングを行っていきます。

日本人の英文ライティングをUPするテクニック 36

本書で扱う英文ライティングをUPするテクニックは以下のとおりです。

① スタイル・バランス力面

1. 主語統一で意味を明確に伝え、パラレリズムにより、美しいリズムとスタイルの英文を書く。
2. 修飾法と構文を考えて、美しくバランスのとれた英文を書く。
3. 倒置表現を用いてインパクトのある英文を書く。

② 語彙・表現力面

4. 英和辞典の意味につられず、正しく英語の語彙を使う。

5. 文脈に応じて類語を効果的に使い分ける。
書き言葉（フォーマル・specific words）と話し言葉（インフォーマル・general words）を効果的に使い分ける。
フォーマル度を高める academic vocabulary をマスターせよ！
6. 正しい語彙・コロケーション力を UP するための必須検索ツールを活用する。
7. イディオム、基本動詞、句動詞の運用力を高め、心に響く言い回しをする。
8. ハイフン表現や接頭・接尾辞を駆使して、引き締まった英文を作る。
9. 英単語の意味の広がりをつかみ、多義語を効果的に使いこなす。
10. 和製英語につられず正しい英単語を使う。
11. 他の語で言い換えるパラフレーズングのスキルを身につける。
12. 英語を生き生きとさせる時事英語比喩表現力を UP させる。
[コラム] 性差別表現を避け、political correctness (PC) を実践する。

③ 文法・語法力面

13. 冠詞のコンセプトをつかみ、ブレなく使いこなす。
14. 名詞の可算・不可算をマスターする。
15. 英語の時制や仮定法を使いこなす。
16. ライティング力 UP のための5文型・構文をマスターする。
17. 2文を1文に引き締めるテクニックをマスターする。
名詞化 (nominalization) テクニックを会得する。
18. ライティング力 UP 前置詞をマスターする。
19. 英語の表記をマスターする。

④ 論理力・発想力面

20. 関連性 (relevancy) を持たせる。
21. 英語の段落づくり (paragraphing) をする。

22. 正確な分類 (categorization) をする。
23. 構成 (organization) を作る。
24. 強いアーギュメント (valid argumentation) をする。情報の出所 (information sources) を明示する。
25. 5W1H を明確にする。
26. 論理の飛躍 (a leap in logic) をしない。
27. 接続語や referencing で文のつながり (cohesion) をよくする。
28. 無生物主語の論理明快な力強い文にする。
29. ダブル・ミーニングと韻を用いてインパクト・説得力を出す。
30. ヘッジング (hedging) を効果的に使いこなす。
31. logos (論理性)、ethos (信憑性)、pathos (情) を駆使する。
32. 倫理にかなった議論 (ethical and valid argumentation) をする
33. 能動態 (active voice)、肯定形 (affirmative forms) を用いる。

⑤ 見識・哲学力・向上心面

34. 世界情勢や異文化、歴史に関する見識を深め、英文記事を書く practice をする。
35. 人生経験を積み、英文パッセージを書く practice をする。
36. 人生や社会について深く考える哲学的な人間となり、英文ライティング力を UP させる向上心を持つ。

その他のうっかりミスをしてしまいそうなカタカナ英語には、次のようなものがあります。正しい英語表現が使えるように確認しておきましょう。

- ゴールデンタイム **prime time、peak viewing time**
国によって異なりますが、日本では夜の7~11時のテレビの視聴率が最も高い時間帯を指します。
- ノルマ **a quota**
「ノルマ」はロシア語 *norma* からの外来語です。
- ソフトクリーム **soft serve**
soft serve は「やわらかい状態で出されたアイスクリーム」のこと。英国では *a 99、an ice cream cone* といわれます。
- スタンド（照明の） **lamp、desk lamp [light]**
英語の *stand* は照明器具ではなく *a coat stand* や *a hat stand* といって、コートや帽子を掛けるスタンドのこと。
- トレーナー（衣服） **sweatshirt**
英語の *trainer* は、運動選手や動物の訓練をする人を指すので要注意です。ちなみに、「パーカー（衣服）」は **hooded sweatshirt** といえます。

No. 11

他の語で言い換えるパラフレーズのスキルを身につける!

ここでは英文ライティング力のためのテクニック「パラフレーズ (*paraphrase*)」について学習していきましょう。*paraphrase* とは直訳すると「言い換え (る)」という意味ですが、ロングマン英英辞典で定義を調べてみると次のように書かれています。

to express in a shorter, clearer, or different way what someone has said or written (言葉や文章を、より端的に、明確に、あるいは異なった形で表現すること)

特に **shorter, clearer or different way** がポイントで、類語による言い換えだけでなく様々な方法を用いて表現するのは「英語は日本語よりも同じ単語の繰り返しを嫌う言語」だからです。例えば、日常会話での A と B による次のようなやり取りを下線部に着目しながらご覧ください。

A : It's **hot** today.

B : Yeah, it's **pretty warm**. I hate it.

おわかりのように A が言った **hot** という語を、B は **pretty warm** に言い換えていますね。これは意識的に行っているわけではなくごく自然なやり取りです。このことから *repetition* が多いと日本人以上にネイティブスピーカーはその個所が目についてしまいます。よって、単に表現にバラエティをつけるためだけではなく、こういった言語的な特徴からも言い換え、つまり **paraphrase** が重要になってきます。ではこれらの基本を踏まえたうえで練習問題にトライしていただきましょう。

Q. 次の英文を見て、類語での置き換えによるパラフレーズできる部分はどこかを考えてみましょう。

There are some clear advantages of living in the countryside rather than in the city. The first advantage is its healthy living environment. Unlike large cities, especially densely populated areas, the air in the countryside is usually clean and fresh because of less harmful emissions from traffic and industry. Another advantage would be greater public security.

お気づきになりましたか。それはこのわずか60ワードほどの短い文章の中に **advantage** という単語が3回（1、2、6行目）も使われていることです。これは **repetition**（繰り返し）とみなされてしまうので、次のように置き換える必要があります。

There are some clear advantages of living in the countryside rather than in the city. The first benefit is its healthy living environment. Unlike large cities, especially densely populated areas, the air in the countryside is usually clean and fresh because of less harmful emissions from traffic and industry. Another positive aspect would be greater public security.

確認できましたか。このように **repetition** を減らすことで文章の質が高まり、同時に **cohesion** もよくなります。こういった基本的な類語による置き換えから、その他の様々な方法で **paraphrase** を行うことにより洗練された文章を書くことができます。では早速みなさんのライティング力をさらにアップさせる4つの **paraphrase** テクニックを学んでいきましょう。

4つの paraphrase テクニックを習得せよ!

パラフレーズの方法は大きく分けて以下の4つに分類することができます。

- | | |
|--------------|-----------|
| 1. 類語による置き換え | 2. 定義化 |
| 3. 品詞の変化 | 4. 文構造の変化 |

これらの方法は単体で行うこともありますが、通常は複数を組み合わせて行います。それではこれらの4つの方法を詳しく見ていきましょう!

1. 類語による置き換え

文脈に応じて適当な類義語に言い換える方法のことを言い、英語では **substitution**（置き換え）と呼ばれています。次の例をご覧ください。

- (1)「経済成長」 economic **growth** → economic **development**
- (2)「健康に有害で」 **damaging** to health → **detrimental** to health
- (3)「問題解決に取り組む」 **tackle** the problem → **address** the problem

一見単純そうに見えますが、コンテキストに応じて適切な類語を選択する高度な英語力が必要です。慣れないうちは、thesaurus（類語辞典）などでまず類語を探し、そしてそのまま使うのではなくその都度、各単語の定義や用法を調べるようにしましょう。こうすることで自然な語感を身につけることができます。

2. 定義化

これは1.の「類語による置き換え」に似ていますが、単語を入れ替えるのではなく、**単語の定義を用いてパラフレーズを行う方法**です。次の英文をご覧ください。

- (1) The job requires considerable **expertise**.
→ The job requires considerable **special knowledge and skills**.

(2) It is important to give an **objective** opinion.

→ It is important to give an opinion **based on facts**.

(1) は expertise という名詞の定義、そして (2) は objective という形容詞を定義化していますね。類義語が思い浮かばない場合はこの方法を試してみましょう。

3. 品詞の変化

これは品詞 (part of speech) を変えることによりパラフレーズする方法です。次の (1) と (2) の品詞の変化に着目してください。

(1) 「テクノロジーの進歩」 **technological** progress → progress of **technology**

(2) 「同程度重要である」 **equally important** → of **equal importance**

(1) は technological が technology (形容詞から名詞へ)、(2) は equally が equal (副詞から形容詞へ)、important が importance (形容詞から名詞へ) に変わっていますね。ちなみにアカデミックライティングをはじめとするフォーマルなライティングでは (2) の言い換え例のように名詞句で表現する方が好まれ、この用法を名詞化 (nominalization) といいます。例えば次の a と b の文をご覧ください。

a. It appears to take long time **to analyze the data systematically**.

b. **The systematic analysis of the data** appears to take long time.

a. の下線部の不定詞 to analyze が、b. では analysis と名詞で書かれていますね。このように名詞化することでフォーマル感が増すと同時に、よりスリムな印象の英文を書くこともできます。

4. 文構造の変化

これは4つの方法の中で最も変化が大きい方法で、1文単位から複数の文を変化させることも含みます。例えば、節 (clause) を句 (phrase) に、または態 (voice) を変化させる方法が基本となります。次の (1) と

(2) の例文とその変化をご覧ください。

(1) a. **If you work abroad**, you will be able to expand your cultural horizons.

→ b. **Working abroad** will expand your cultural horizons.

(2) a. **Recent studies show that** a growing number of students are choosing to study at colleges or universities in a foreign country.

→ b. **According to recent studies**, a growing number of students are choosing to study at colleges or universities in a foreign country.

(1) は a. の if 節を用いたインフォーマルな文体を b. のように名詞句を主語にしていわゆる「無生物主語構文」にすることで、S + V + O の文型が変わっています。次に (2) ですが、b. のように According to という前置詞句を用いて主語が変わり、文の構造が変わっています。それでは続けて、もう2つの例を確認しておきましょう。

(3)

a. The number of tourists visiting Japan **has significantly increased** in the 21st century.

b. The 21st century **has seen a significant increase** in the number of tourists visiting Japan.

c. **There has been a significant increase** in the number of tourists visiting Japan in the 21st century.

ここでは、すべての文の主語が異なっています。a. は the number of tourists が主語、b. は see を動詞 (述部) にした形、そして c. は **there is** 構文を用いた文構造になっています。特に b. の物や時代を主語にした see の用法は歴史やデータ分析で使われる便利な表現です。また、c. の **there is** 構文も汎用性が高いので覚えておきましょう。

(4) a. Human activity **has damaged** the entire ecosystem.

→ b. The entire ecosystem **has been damaged** by human